

平成20年度がんセンター（研究局）課題内部評価結果報告書

1 評価実施組織

千葉県がんセンター（研究局）内部評価委員会

2 評価方法

評価委員会が研究担当者から対象課題の説明を受けて評価した。

3 評価の経過

平成20年6月13日評価委員会を開催。

4 評価結果

区分	研究課題名	研究期間	研究概要	評価
中間評価	がん組織由来新規がん関連遺伝子の機能解析とそのゲノム創薬への展開	10年度～ 20年度	小児がん組織から大量に取得した新規遺伝子の機能解析を行い、選ばれた疾患関連遺伝子を標的としたゲノム創薬を目指す。	妥当である (主な意見等) これまでの成果も順調であり、企業との共同研究・今後の更なる発展が期待される。
中間評価	細胞性免疫治療と遺伝子治療の基盤研究と臨床応用	10年度～ 26年度	各種治療に抵抗性の悪性腫瘍に対して新規治療法の開発を目的とし、腫瘍特異的な細胞死の誘導と、抗腫瘍効果を司る免疫応答に立脚した基礎的臨床的研究。	妥当である (主な意見等) 安全面の配慮を十分に行って実行することが重要であり、更なる発展を期待したい。
中間評価	アデノウイルスの転写調節に基づく遺伝子治療の展開	10年度～ 26年度	通常風邪ウイルスを組換え技術によって、腫瘍のみを殺傷するものへと変換し、その特性を利用して難治性の膵がん、悪性中皮腫などの治療を目的とした基盤研究。	妥当である (主な意見等) ウイルスによる遺伝子導入実験については、安全面の配慮を十分に行って実行していくことが望ましい。
中間評価	発がん抑制と細胞死の制御に関わる新規遺伝子の解析とその臨床応用	18年度～ 22年度	新しいがん抑制遺伝子として UNC5H4 遺伝子を同定したので、その遺伝子の細胞死制御に関わる機能解析を行う。	妥当である (主な意見等) 妥当な研究目標設定であり、新規診療法への発展を期待したい。
中間評価	細胞増殖・細胞死制御の分子機構解析とその幹細胞研究への展開による臨床応用	18年度～ 24年度	がん細胞の増殖・細胞死制御に関与するがん遺伝子・がん抑制遺伝子の機能を明らかにし、新たな治療法の開発によって県民の健康増進に貢献することを目指す。	妥当である (主な意見等) 着実に研究を進めていると思われ、新規治療開発が期待される。
中間評価	ヒトがん幹細胞の分離・同定とその治療法開発へ向けた基盤研究	16年度～ 20年度	がん幹細胞マーカーを同定し、これを用いて分離したがん幹細胞を解析して発がんのメカニズムを明らかにし、がん幹細胞を標的とした新たな治療法を開発する。	妥当である (主な意見等) がん幹細胞は、臨床においても重要な課題であり、妥当な研究と思われる。
中間評価	Nxxx タンパクの生理学的および発がんにおける機能の解析	19年度～ 23年度	小児がんに関連する遺伝子である Nxxx の生理学的機能における役割を明らかにし、将来的には発がんにおける Nxxx の役割の解明を目指す。	妥当である (主な意見等) 当センターオリジナルである神経芽種に関連した研究であり、進展させてほしい。
中間評価	がんのゲノム異常および遺伝子発現の網羅的解析とその臨床応用	10年度～ 24年度	DNA マイクロアレイを使って癌組織のゲノム異常と13000個の遺伝子発現を網羅的に解析し、がん関連遺伝子の同定と診断法・治療法の開発を目指す。	妥当である (主な意見等) テーラーメイド医療に向けて意義の高い研究と認められる。
中間評価	がんのゲノム・発現解析から同定した神経関連遺伝子の細胞増殖促進機構の解明と創薬への応用	15年度～ 26年度	神経発生の過程で働く蛋白質が、小児がんである神経芽腫の増殖分化をどのように制御しているかを解析し、診断法と治療法の足がかりになる基礎的情報を得る。	妥当である (主な意見等) 臨床への応用を考慮して、発展させてほしい。

中間評価	DNA 損傷修復と制癌剤耐性獲得機構の分子生物学的研究およびその臨床応用	10年度～ 20年度	制癌剤に対する感受性を規定する p53 ファミリー蛋白質の機能制御機構を明らかにして、難治性のがん細胞の制癌剤感受性を昂進させることを目的とする。	妥当である (主な意見等) DNA 損傷と制癌剤の抵抗性のメカニズムに関する研究であり妥当である。
中間評価	がん幹細胞とその微小環境を標的とした新規細胞治療法開発に関する基盤研究	18年度～ 20年度	がん組織構築における正常組織幹細胞に特徴的な蛋白質の機能解析から、がん幹細胞の特性を明らかにして、当該細胞を標的とした新規治療法の開発を目指す。	妥当である (主な意見等) がん再発に対する新規治療法の開発に向けて努力してほしい。
中間評価	発がんとがんの進展に関わる個体発生関連遺伝子の同定および遺伝子改変マウスを用いた機能解析	18年度～ 22年度	がん関連遺伝子のうち、特に神経芽腫発生との関わりが予想される遺伝子群に対する遺伝子改変マウスの作製、解析を行い、ヒト疾患モデルマウスの開発を目指す。	妥当である (主な意見等) アポトーシスに関する研究であり、腫瘍の細胞死に関連する結果が期待できる
中間評価	低酸素応答遺伝子の細胞分化および個体発生における役割の解析	15年度～ 22年度	固形腫瘍内でしばしば観察される低酸素条件下で発現の亢進する新規遺伝子を見出し、その機能解析を行ない、細胞分化および個体発生における役割を解明する。	妥当である (主な意見等) がん、血管新生、低酸素状態における遺伝子発現の研究であり、将来性が期待できる
中間評価	トランスレーショナルリサーチによる新治療体系の確立に関する基盤研究	16年度～ 20年度	患者により治療効果が異なる分子標的薬剤の使用について肺がんや乳がん等において遺伝子診断を行い、治療成績の更なる向上を目指す。	妥当である (主な意見等) 臨床応用に直結した課題であり、充実させてほしい。
中間評価	遺伝子検査情報からトランスレーショナルリサーチへの展開に向けて	18年度～ 22年度	臨床材料で遺伝子の突然変異解析や増幅を調べ、臨床現場の診療に役立てると同時に、蓄積された結果から新たな診断や治療方法の開発につなげる事を目指す。	妥当である (主な意見等) 遺伝子異常と臨床像との結びつきが研究されており興味深い。
中間評価	がんの転移と腫瘍内微小環境に関する分子細胞生物学的研究及びその臨床応用	15年度～ 22年度	ミトコンドリア遺伝子変異が、ヒトがん細胞の転移能を制御するか否かを解明し、転移の予防と予測への応用の可能性を検討する	妥当である (主な意見等) 転移のメカニズムに関わる興味深い課題であり、発展させてほしい。
中間評価	地域がん専門診療施設のソフト面の整備拡充に関する研究	20年度～ 21年度	がん専門診療を行う「全国がん(成人病)センター協議会」加盟 32 施設の診療成績を集計公表する研究である。平成 19 年度より病期別 5 年生存率の公表を開始した。	妥当である (主な意見等) 全国的に意義が高いものと考えられ、地域がん診療の向上のために努力してほしい。
中間評価	院内がん登録の進捗	17年度～ 22年度	がん診療連携拠点病院の標準様式に従って国のがん対策情報センターに院内がん登録のデータの提出を行った。県内拠点病院のがん医療の均てん化について検討した。	妥当である (主な意見等) がん診療に不可欠なものであり、しっかりと進行してほしい。
中間評価	千葉県民を対象とした分子疫学コホート調査による疾病罹患リスク評価と個人向け予防法の確立	17年度～ 37年度	疾病と生活習慣、体質との関係の解明を目的とした千葉県大規模ゲノムコホート調査を実施し、その成果を県民の健康福祉向上のために還元することを目標とする。	妥当である (主な意見等) 千葉県にとって研究の意義は高く、今後の実施体制の充実が望まれる。
事後評価	がん発生の地理疫学的研究	13年度～ 19年度	千葉県がん登録資料を用いて幹線道路と肺がん、送電線電磁場とリンパ腫、アスベスト労災関連事業所近傍における中皮腫や肺がん罹患等のリスク評価を行った。	妥当である (主な意見等) がん登録情報を利用した疫学研究として、興味深い研究であった。